

[記入方法] 該当する項目の・に○×マークを記入する。(※施工プロ)とは施工プロセスチェックでチェックされた項目である。

(監督員)

審査項目	細 別	a	b	c	d	e	
I. 施工体制	I. 施工体制一般	施工体制が適切である	施工体制がほぼ適切である	他の事項に該当しない	施工体制がやや不備である	施工体制が不備である	
		「評価対象項目」 1. 作業分担と責任の範囲が施工体制台帳・施工体系図（下請契約の全てを記載）もしくは施工計画書で確認できる。(※施工プロ) 2. コリンス (CORINS) への登録申請（請負金額500万円以上）は、監督員の確認を受けた上で契約締結後土日、祝日を除き10日以内に行われている。(※施工プロ) 3. 建退共制度適用事業主工事現場」の標識を現場に提示すると共に、証紙購入が適切に行われ、配布が受払簿等により把握されている。(※施工プロ) 4. 施工体制台帳・施工体系図(下請契約の全てを記載) が整備され、施工体系図が現場に掲げられ、現場と一致している。(※施工プロ) 5. 「労災保険関係成立票」の標識が公衆の見やすい場所に掲示している。(※施工プロ) 6. 「建設業許可票」の標識が公衆の見やすい場所に掲示している。(※施工プロ) 7. 建退共掛金収納書を工事完成時に確認した。(※施工プロ) 8. 「施工プロセス」チェックで、指摘事項が無かった。または指摘事項に対する改善が速やかに（次回）実施された。 9. その他（ ） 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする 評価値（ ）% = 該当項目数（ ） / 評価対象項目数（ ）				施工体制が不備であり、監督員から文書により改善指示を行った。 上記該当事項があれば…… e	
		評価方法 ① 当該「評価対象項目」のうち評価の対象としない項目は削除する。→○○○ ② 項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率（%）計算の値で評価する。 ③ 評価するもの ○ 評価できないもの × ④ 評価値（%）= 該当項目数 / 評価対象項目数 = ○ / (○ + ×) 以下同様省略					
	II. 配置技術者 (現場代理人等)	a	b	c	d	e	
		技術者が適切に配置されている	技術者がほぼ適切に配置されている	他の事項に該当しない	技術者の配置がやや不備である	技術者の配置が不備である	
		「評価対象項目」 1. 現場代理人として常駐し（兼任は常駐免除）工事全体の把握ができています。(※施工プロ) 2. 現場代理人として、監督員との連絡調整については「連絡」を除き書面で行っている。(※施工プロ) 3. 現場代理人は、乙が委任した事項について適切に処理をしている。(約款第11条) 4. 作業主任者を選任し配置している。(※施工プロ) 5. 監理（主任）技術者が、明確な根拠に基づいて技術的な判断を行っている。(※施工プロ) 6. 主任技術者又は、監理技術者として現場に常駐し、良好な施工に努めた。(※施工プロ) 7. 施工等に先立ち、創意工夫または提案を持って工事を進めている。(※施工プロ) 8. 契約書、設計図書、指針等を良く理解し、現場に反映して工事を行っている。 9. 設計図書の照査が十分で現場との相違があった場合は適切に対応している。 10. 異常時、緊急時の対応・情報伝達・組織等が確立され現場の見やすい場所に掲示している。 11. 工事書類の簡素化の趣旨に則り、工事書類を適切に作成し提出又は提示している。 12. 下請負人指導責任者を選任し、下請負人の施工体制及び施工状況を把握し、技術的な指導を行っている。(※施工プロ) 13. 港湾工事等において潜水作業従事者を適正人員配置している。(※施工プロ) 14. 港湾工事等において海上起重作業船団長を配置している。(※施工プロ) 15. 「施工プロセス」チェックで、指摘事項が無かった。また指摘事項に対する改善が速やかに（次回）実施された。 16. その他（ ） 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする 評価値（ ）% = 該当項目数（ ） / 評価対象項目数（ ）				・ 現場代理人等の技術者配置が不備で、監督員から文書により改善指示を行った。 ・ 専門技術者が配置されていない。 1項目でも該当あれば…………… d 2項目該当…………… e *安全管理が適切でなく、事故を発生させた場合は、a評価はしない。	

別紙-1 ②

審査項目	細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	施工体制が適切である	施工体制がほぼ適切である	他の事項に該当しない	施工体制がやや不備である	施工体制が不備である
		「評価対象項目」 ・ 1. 約款第19条第1項（1）から（5）に基づく設計図書の照査を行い、施工がなされている。（※施工プロ） ・ 2. 施工計画書と現場施工方法・現場施工体制等が一致している。（※施工プロ） ・ 3. 施工計画書の内容が設計図書の内容及び現場条件を反映したものとなっている。（※施工プロ） ・ 4. 日常の出来形管理が施工計画書等に基づき、的確に行われている。（※施工プロ） ・ 5. 日常の品質管理が施工計画書等に基づき、的確に行われている。（※施工プロ） ・ 6. 現場内での整理整頓が日常的になされている。 ・ 7. 工事材料等の品質保証等が適切に整理されている。（※施工プロ） ・ 8. 工事材料を品質に影響ないように保管している。（※施工プロ） ・ 9. 立会確認の手続きが事前になされ、段階確認については書面で確認できる。（※施工プロ） ・ 10. 工事記録写真等が適時、的確に整理されている。 ・ 11. 建設廃棄物及びリサイクルへの取り組みが適切になされている。（※施工プロ） ・ 12. 工事全体で、使用機械・車両等で低騒音、低振動、排出ガス対策機械を使用している。（※施工プロ） ・ 13. 「施工プロセスチェック」で指摘事項がなかった。また指摘事項に対する改善が速やかに（次回）実施された。 ・ 14. その他（ ） 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする 評価値（ ）% = 該当項目数（ ） / 評価対象項目数（ ）				・ 設計図書と適合しない箇所があり、文書により改善請求を行った。 ・ 施工計画書が工事施工前に提出されていない。 ・ 定められた工事材料の検査義務を怠り破壊検査を行った。 ・ 契約図書に基づく施工上の義務につき、監督員から文書により改善指示を行った。 1項目でも該当あれば…………… d 2項目該当…………… e
	II. 工程管理	工程管理が適切である	工程管理がほぼ適切である	他の事項に該当しない	工程管理がやや不備である	工程管理が不備である
		「評価対象項目」 ・ 1. 実施工程表の作成及びフォローアップを行っており、適切に工程を管理している。（※施工プロ） ・ 2. 現場設計内容の変更への対応が積極的で処理が早く、また地元調整を積極的に行い円滑な工事進捗を行った。（※施工プロ） ・ 3. 官公庁の休日または夜間に作業を行った場合、事前に書面で提出した。（※施工プロ） ・ 4. 工事の進捗を早めるための取り組み、(材料、工法、作業工程などの見直し)を行っている。(工期短縮の取り組みが不要な場合、削除) ・ 5. 時間制限や片側交互通行等の各種制約条件への対応が適切であり、大きな工程の遅れがない。 ・ 6. 施工計画書に基づき休日の確保を行うとともに、計画以外の時間外作業がほとんど無い。 ・ 7. 「施工プロセスチェック」で指摘事項がなかった。または指摘事項に対する改善が速やかに（次回）実施された。 ・ 8. その他（ ） 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする 評価値（ ）% = 該当項目数（ ） / 評価対象項目数（ ）				・ 受注者の責により工期内に工事を完成させなかった。(但し、改善指示による場合を除く) 上記該当あれば…………… e ・ 自主的な工程管理がなされず、監督員から文書により改善指示を行った。 上記該当あれば…………… d

別紙-1 ③

① 調査項目	② 細 別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	Ⅲ.安全対策	安全対策を適切に行った	安全対策をほぼ適切に行った	他の事項に該当しない	安全対策がやや不備であった	安全対策が不備であった
		<p>「評価対象項目」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 新規入場者教育を実施し、実施内容に現場の特性が十分反映され、記録が整備されている。(※施工プロ) ・ 2. 安全教育・訓練等を月当たり半日以上適時、的確に実施し記録が整備されている。(※施工プロ) ・ 3. 安全パトロール、安全ミーティング(KY)等を実施し記録が整備されている。(※施工プロ) ・ 4. 店社パトロールを1回/月以上実施し、記録が整備されている。(※施工プロ) ・ 5. 災害防止(工事安全)協議会等を設置し、1回/月以上活動し記録が整備されている。(※施工プロ) ・ 6. 各種安全パトロールで指摘を受けた事項について、速やかに改善を図り、かつ関係者に是正報告している。(※施工プロ) ・ 7. 使用機械(港湾工事の場合は使用船舶)、車両等の点検整備等がなされ管理されている。(※施工プロ) ・ 8. 重機操作に際して、誘導員配置や重機と人の行動範囲の分離措置がなされている。(※施工プロ) ・ 9. 地下埋設物及び架空線等に関する事故防止措置が実施されている。(※施工プロ) ・ 10. 仮設工(山留め・仮締切・足場・支保工等)の点検及び管理がチェックリスト等を用いて実施されている。(※施工プロ) ・ 11. 工事現場内・資機材置場・危険物置場の整理整頓がなされている。(※施工プロ) ・ 12. 「施工プロセス」チェックで指摘事項がなかった。または指摘事項に対する改善が速やかに(次回)実施された。 ・ 13. その他 () <p>評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする</p> <p>評価値 () % = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨機の措置が不適切、または監督員の指示に従わなかったため、災害等の損害をうけた。 <p>上記該当であれば…………… e</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理に関する現場管理または防災体制が不適切であり、監督員から文書による指示を行った。 <p>上記該当であれば…………… d</p> <p>*安全管理が適切でなく、事故を発生させた場合は、a評価はしない。</p>
	Ⅳ.対外関係	対外関係が適切であった	対外関係がほぼ適切であった	他の事項に該当しない	対外関係がやや不備であった	対外関係が不備であった
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1. 関係官公庁などと調整を行い、トラブルの発生が無い。(※施工プロ) ・ 2. 地元との調整を行い、トラブルの発生が無い。(※施工プロ) ・ 3. 第三者からの苦情が無い。(※施工プロ) ・ 4. 第三者から苦情があった場合、その苦情に対して適切な対応を行っている。(※施工プロ) ・ 5. 関連工事との調整を行い、円滑な進捗に取り組んでいる。(※施工プロ) ・ 6. 「施工プロセス」チェックで指摘事項がなかった。または指摘事項に対する改善が速やかに(次回)実施された。 ・ 7. 工事の目的及び内容を、工事看板などにより地域住民や通行者等に分かりやすく周知している。 ・ 8. その他 () <p>評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満 …… b 評価値が60%以上～80%未満 …… c 評価値が60%未満…………… d ※評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする</p> <p>評価値 () % = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連工事との調整に関して、発注者の指示に従わなかったため、関連工事を含む工事全体の進捗に支障が生じた。 <p>上記該当であれば…………… e</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受注者の対応による苦情が多い。または対応が悪くトラブルがあった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係法令に違反する恐れがあったため、監督員から文書により指示を行った。 <p>上記該当であれば…………… d</p>

別紙-1 ④

考査項目	a	b	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ 1. 出来形	<ul style="list-style-type: none"> 出来形が、測定項目、測定基準及び規格値を満足し、ばらつきが規格値の概ね50%程度以内であり下記の2項目が全て該当する。 ※ばらつきの判定は別紙-4参照 出来形測定において不可視部分が写真で的確に判断できる。 出来高管理基準で必要とされる管理項目を全て管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来形が、測定項目、測定基準及び規格値を満足し、ばらつきが規格値の概ね80%程度以内であり下記の2項目が全て該当する。 ※ばらつきの判定は別紙-4参照 	<ul style="list-style-type: none"> 出来形が、測定項目、測定基準及び規格値を満足し、a及びbに該当しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 出来形が、測定項目、測定基準及び規格値を満足せず、規格値を超えるものがあり、ばらつきが大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 検査員が文書で修補（手直し）指示を行った。
①出来形の判定は、工事全般を通じて判定するものとする。 ②出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状・寸法である。 ③出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系であるが、当該管理基準によりがたい場合等については、監督員と協議の上で出来形管理を行うものである。 ④出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。			<ul style="list-style-type: none"> 監督員が文書で改善指示を行った 上記項目に該当があれば…… d	<ul style="list-style-type: none"> 検査員が文書で修補（手直し）指示を行った。 上記項目に該当があれば…… e	

II. 品質

別紙3 - ③～⑥ - 33による。

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	舗装工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5) 目地の処理が、仕様書に定められたとおりであることが確認できる。 ・ 6) 気象条件に適した混合物の運搬方法及び舗設作業（締め固め等）の配慮が行われている。 ・ 7) 乳剤が均一に散布され、第三者への飛散防止対策及び構造物への付着など、細心の注意が払われている下で適正に塗布されている。 ・ 8) アスカーブの施工において、細かな配慮がなされ丁寧に施工されている。 ・ 9) 路肩処理及び端部処理の施工において、細やかな配慮がなされ丁寧に施工されている。 ・ 10) 密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 <p>【コンクリート舗装関係】の規格</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリート（強度・w/c・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・ 2) コンクリート打込み時に必要な供試体を採取し、強度、スランプ及び空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） ・ 3) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固及び養生方法等適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） ・ 4) コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・ 5) コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） ・ 6) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成20年3月14日付技第1037号） ・ 7) コンクリート打込みまでのチェアー、タンパー等の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 8) コンクリート版の四隅、スリップバー、タンパー等の付近は、分離したコンクリートが集まらないようにしている。 ・ 9) コンクリート舗装の表面は粗面仕上げで、かつ平坦で緻密、堅硬な表面仕上げになっている。 ・ 10) コンクリート舗装の表面仕上げで、縦方向に凹凸がない。 ・ 11) 目地の隣り合わせの舗装面に段差がない。 				
II						
品						
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ 質	舗装工事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12) 舗装工の施工に先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。 ・ 13) 材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。 <p>【橋面舗装】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1) 橋面舗装では、舗装に先駆けて行う防水工においてむらがなく、橋面の防水前及び施工後の測定を行っている。 ・ 2) 水の浸入を防止する舗装端部の処理が適正に施工されている。 ・ 3) 防水シートは橋面部を洗淨し、水分計等で床版が十分に乾燥したことを確認した後に付着を適切に行っている。 ・ 4) 舗装コアを採取しない場合は、別途適切な方法で密度管理を行っている。 ・ 5) 床版工のスペーサーは、本体コンクリートと同等の品質で1㎡当たり4個以上の設置が確認できる。 <p>評定方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。 ③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0)☒ ④ 評価値 (%)= 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数 <p> 評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % </p> <p> 評価値が90%以上..... a 評価値が80%以上～90%未満..... b 評価値が60%以上～80%未満..... c 評価値が60%未満..... d </p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	維持修繕工 事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		[評価対象項目] 【（防雪）柵設置工事（組み立て、収納、撤去）】 ・ 1) 支線の設置方法及びターンバックルの締め付けが適切であり、堅固に固定されている。 ・ 2) 返納材料が部材毎に整備され、指定保管場所に適切に集積されていることが確認できる。 ・ 3) 部材形状がきめ細かに調整され、各スパンが均一に施工されていることが確認できる。 ・ 4) 締め付けボルト、固定金具の取り付け状況を入念に点検し、施工されていることが確認できる。 ・ 5) 製品に新材がある場合、キズ、へこみ及び塗装のはがれがないことが確認できる。 【舗装道維持修繕工事】 ・ 1) 設計図書に基づく混合物の配合報告書により、適切な混合物の規格が確認できる。 ・ 2) 舗装が入念に実施されており、周縁部との段差や隙間などがなく、確実な密着が確認できる。 ・ 3) 施工面の水やゴミ等の有害物を除去後に舗設したことが確認できる。 ・ 4) プライマーが適切な方法により均一に散布又は塗布されていることが確認できる。 ・ 5) 打ち換えの舗装補修では、路盤の不陸が確実に修正され、切削工では切削面が平坦に出来上がっている。 【道路維持修繕工事】 ・ 1) 材料（二次製品）の規格及び品質が適正であり、証明書等が整備されている。 ・ 2) 基礎及び支柱が沈下しないよう、設置孔の基礎部が十分締め固められ、堅固に立て込まれている。 ・ 3) 取り替え前に、既存部材の形状等がきめ細かに調整され、支障なく本来の機能が確保されている。 ・ 4) 蓋掛け前に、施工区間内側溝の清掃が実施され、蓋のガタツキがないことが確認される。 ・ 5) 構造物、道路付属物周辺の除草及び伐採が実施されている。 【河床整形工事】 ・ 1) 施工基面が平滑に仕上げられている。 ・ 2) 土砂等の流出や既存施設への影響が生じないよう適切に施工している。				・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・・・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形 及び出来 ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>維持修繕工 事</p>	<p>・ 3) 灌木等の伐採漏れがなく、切断高さは設計図書に従って対象範囲を確実に処理している。</p> <p>・ 4) 伐採及び撤去物の処理が適正に行われていることが確認できる。</p> <p>評定方法</p> <p>① 当該「評価対象項目」のうち評価対象外の項目は削除する。</p> <p>② 削除項目のある場合は削除後の評価項目を母数として、比率で評価する。</p> <p>③ 評価するもの ○(1.0) おおむね評価するもの △ (0.5) 評価できないもの ×(0)☒</p> <p>④ 評価値 (%) = 評価数 / 対象評価項目数 = ○+△ / 評価対象数</p> <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上..... a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満..... b</p> <p>評価値が60%以上～80%未満..... c</p> <p>評価値が60%未満..... d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>下水道工事</p> <p>[管渠補修工事]</p>	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <p>【SPR工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に管渠内を調査し、劣化部除去後フェノールフタレイン溶液にて、中性化状況を確認している。 ・ 表面部材（SPRプロファイル）金属部材（スチール補給材）の構造、寸法、物性が材料検査成績書により確認できる。 ・ 充填材（SPRモルタル）の材質、物性、配合等について材料検査成績表により確認できる。 ・ 材料の物質、物性、配合等について材料承認願いを提出し、承認をうけている。 ・ 材料の物質、物性、配合等について材料承認願いを提出し、承認をうけている。 ・ 二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 ・ 表面部材、金属部材の保管場所が屋内である。やむを得ず屋外の場合は紫外線遮光シートなどで全体を覆って保管している。 ・ スチール補強材の保管は著しい発錆が無いように適切に保管を行っている。 ・ プロファイルドラムの搬送・搬入時にはその重量を把握し、適切な荷積・荷降ろし機械を用い、損傷を与えないように細心の注意が払われている。 ・ 製管距離が長くなる場合、現場においてプロファイル同士を熱圧着（小口径）、又は塩ビ溶接（大口徑：人間が入る場合）して接続していることが確認できる。 ・ モルタルは水和性を有するため、保管及び搬送・搬入時には梱包された状態を維持し、水漏れや結露が無いように適切な処置がとられている。 ・ モルタル注入時に比重測定（1.20以上）を行っている。 ・ 初回時の混練りにおいて引き抜きフローを実施している。 ・ 裏込め注入時に採取した供試体により、圧縮強度試験を実施し注入日ごとに強度を確認している。 ・ モルタル使用量は、空袋で使用数量が確認できる。 ・ 再生管と既設マンホールとの取り合い箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の異常の無いことが確認できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 <p>上記該当あれば・e</p>

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e	
3.出来形 及び出来 ばえ	下水道工事 [管渠補修工 事]	<ul style="list-style-type: none"> 再生管の変形・浮上による縦断勾配の不陸等の欠陥や異常箇所が無いことが確認できる。 再生管径800mm以上の場合、管内の打音検査などで裏込め材の充填状況を確認している。また、再生管径800mm未満の場合には両側マンホール管口付近の打音検査などで裏込め材の充填状況を確認している。 マンホールの仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の異常が無いことが確認できる。 中心線の通りが良い。 <p>【3Sセグメント工法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表面部材（3Sセグメント材）の構造、寸法、物性が材料検査成績書により確認できる。 3S充填材（モルタル）の材質、物性、配合等について材料検査成績表により確認できる。 材料の物質、物性、配合等について材料承認願いを提出し、承認をうけている。 二次製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認し受け取り、損傷のないもので施工されている。 表面部材、金属部材の保管場所が屋内である。やむを得ず屋外の場合は紫外線遮光シートなどで全体を覆って保管している。 3Sセグメントの搬送・搬入時には、適切な荷積・荷降ろしにより、損傷を与えないように細心の注意が払われている。 ボルト・ナットで3Sセグメント材を連結する際には、あらかじめエアハンドツールの締め付けトルクを確認している。 3Sセグメントを組み立てる際に、接合部には水密性を確保するためのシール材を塗布している。 現場に搬入された3Sセグメントは、傷、亀裂、割れがなく、表面が平滑であることが確認できる。 充填材は水和性を有するため、保管及び搬送・搬入時には梱包された状態を維持し、水漏れや結露が無いように適切な処置がとられている。 更正工の直前に管渠内の洗浄を充分に行い、土砂、小石、管壁破損等を完全に除去している。 洗浄後にTVカメラまたは目視にて、管渠内が充分に洗浄されているかどうかの確認を行っている。 充填材の配合はバッチ毎に1回、充填材25kg当たり、5.3ℓを注水している。 充填材の混練りにおいて注入日ごとに、引き抜きフロー値測定を実施している。 下水共用下の施工は水深25cm以下とし、充填材の注入に支障となるような多量の浸入水がある場合は、仮止水工を実施している。 					
II							
品							
質							

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	下水道工事 [管渠補修工 事]	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流量計により、注入ポンプの吐出量を計測している。 ・ 注入時に管内及び管口に充填材が漏れ出していないことを確認している。 ・ 最終段階の注入が完了した後、注入口部の充填を行うため、立ち上げ管を設けて補足注入を行っている。 ・ 管内注入口は、パテと専用のキャップを用い閉塞処理していることが確認できる。 ・ 両端部の充填材露出防止用コーキング材の充填状況を確認している。 ・ 裏込め注入時に採取した供試体により、一軸圧縮強度試験を実施している。 ・ 充填材使用量は、空袋で使用数量が確認できる。 ・ 再生管と既設マンホールとの取り合い箇所仕上げ部においては、浸入水、仕上げ材の剥離及びひび割れ等の異常の無いことが確認できる。 ・ 再生管の変形・浮上による縦断勾配の不陸等の欠陥や異常箇所が無いことが確認できる。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90 % 以上…………… a</p> <p>評価値が 80 % 以上～90 % 未満…………… b</p> <p>評価値が 60 % 以上～80 % 未満…………… c</p> <p>評価値が 60 % 未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	下水道工事 [可とうジョイ ント設置工事]	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。
		[評価対象項目] ・ 使用材料の品質がミルシート、性能試験等で確認できる。 ・ ジョイント材料（伸縮ゴム）の物性検査（硬さ、引張強度、伸び率率）等が実施されており、規格値を満足していることが確認できる。 ・ オゾン劣化試験で異常のないことが確認できる。 ・ 運搬されたジョイント（伸縮ゴム）を注意して取り出し、ヒビ、われの無いことが確認できる。 ・ 下地処理（樹脂モルタル等）が平滑に実施されていることが確認できる。 ・ アンカーの施工長さが確認され、確実に固定されている。 ・ アンカー金具の引き抜き試験を実施し、適切に管理されている。 ・ ボルトの締付（トルク）確認が実施され、適切に記録が管理されている。 ・ ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・ ボルトの取付け位置が設計どおりの間隔で設置されている。 ・ 伸縮ゴムとスパンシールを押さえ板・ボルトナットで締付けることにより、水密性を確保していることが確認できる。 ・ 樹脂モルタル等の施工に支障となるような浸入水がある場合は仮止水工を実施している。 ・ 樹脂モルタル等の使用量が納品書及び空袋等により確認できる。 ・ シール材の施工において細やかな配慮がなされている。				
II 品 質		評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が 90% 以上..... a 評価値が 80% 以上～90% 未満..... b 評価値が 60% 以上～80% 未満..... c 評価値が 60% 未満..... d				上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	下水道工事 [マンホール・管口の耐震化工法]	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・ 現場での材料の保管が適正に管理されている。 【管口耐震化（マグマロック工法）】 ・ ゴムスリーブの基本物性検査（引張り試験、老化試験、圧縮永久ひずみ率）等が実施されており、規格値を満足していることが確認できる。 ・ ステンレススリーブの基本物性検査（引張り強さ、硬度、引張り破断時の最大伸び）等が実施されており、規格値を満足していることが確認できる。 ・ 誘導目地の切削深さ、位置を決めるため、事前に測定している。 ・ 誘導目地が管の厚さの一部を残して切り込んであることが確認できる。 ・ 誘導目地へのシール材が隙間なく充填されていることが確認できる。（水中も） ・ シール材の使用量が納品書及び空缶等により確認できる。 ・ ゴムスリーブが確実に設置されていることが写真等で確認できる。 ・ ステンレススリーブ（SUS316）に固定金具を挿入した後、固定用ジャッキで圧入し、更に拡径し、固定していることが確認できる。 ・ マグマロック設置工における油圧ジャッキの圧力基準が管理基準内に入っている。 【マンホール浮上抑制（セフテイパイプ工法）】 ・ 使用材料（集水管・止水エントランスゴム・集水管ゴム・逆止弁等）の品質がミルシート、性能試験等で確認できる。 ・ 集水管の施工長さが確認され、確実に固定されている。 ・ 集水管の方向、角度が設計図書どおりに施工されていることが確認できる。 ・ 集水管の位置、数量が設計図書どおりに施工されていることが確認できる。				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
						・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>下水道工事 [マンホール・管 口の耐震化 工法]</p>	<p>【マンホール浮上抑制（ハットリング）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料（浮上抑制ブロック・固定バンド・バックアップ材等）の品質がミルシート、性能試験等で確認できる。 ・ 掘削底面部は浮上抑制ブロックの沈下防止を防ぐため十分転圧されていることが確認できる。 ・ 固定バンドが所定の位置に取付けられていることが確認できる。 ・ 固定バンドの締付確認が実施され、所定のトルク値で締め付けられており、適切に記録が管理されている。 ・ 固定バンドの締付器、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・ マンホール本体と浮上抑制ブロックとの間に隙間があり、地震時に別々の挙動を示すようになっていることが確認できる。 ・ マンホールの外周部と浮上抑制ブロックの隙間にバックアップ材が隙間なく充填されていることが確認できる。 ・ マンホール浮上抑制ブロックに偏土圧がかからないように均等に埋め戻していることが確認できる。 ・ 土砂流出防止ネットが掘削周囲に折り曲げられていることが確認できる。 ・ 補助ブロックと連結する鋼材とのボルト締付確認が実施され、適切に記録が管理されている。 ・ アスファルト舗装の舗設温度等の品質管理が適切に行われている。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上…………… a</p> <p>評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b</p> <p>評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c</p> <p>評価値が 60% 未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	水管橋工事 (伸縮可とう管工事)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		[評価対象項目] 【工場製作関係】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材の員数照合がミルシート等（現物照合を含む）で確認されている。 ・ 塗装する面が乾燥状態であることが確認できる。 ・ 素地調整の場合、第1種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。 ・ 塗料の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できる。 ・ 塗料の品質が出荷証明書、塗料証明書で確認できる。 ・ 塗装前の処理が適切に実施されていることが確認できる。 ・ 仕様書に定められた制限内の気温、湿度の条件下で塗装を行っていることが確認できる。 ・ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 伸縮可とう管の構造、寸法、水圧試験等が実施され、試験成績表等で確認できる。 ・ 放射性透過試験により溶接箇所試験結果報告書が作成され、適正に実施されたことが確認できる。 【架設関係】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ・ ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・ ボルトの品質がミルシート等で確認できる。 ・ 鋼材の保管にあたり変形及び塗装面に損傷を与えないように適切に管理されている。 ・ 現場架設後、水漏れしていないことが確認できる。 ・ 現場塗装で塗り残し、むら等がない。 ・ フランジの据付で、コンクリート面のチッピング及びモルタル付着が確認でき、仕上げ面が平坦に出来ている。 				
II 品 質						

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形 及び出来 ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>水管橋工事 (伸縮可と う管工事)</p>	<p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上…………… a</p> <p>評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b</p> <p>評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c</p> <p>評価値が 60% 未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	(下水道)コンクリート構造物工事(重力濃縮槽・等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害なクラックが無い。 ・ テストハンマーによる強度推定調査を実施し、調査票を作成している。 ・ 水張試験を実施し、水面低下が5mm以下であることを監督員立会いの元確認している。 	<p>【鉄筋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・ スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・ 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・ 主鉄筋の引張試験を1規格10ロッドごとに実施している。 ・ 非破壊試験を実施し、配筋状態およびかぶり測定により鉄筋状況を確認している。 <p>【コンクリート防食塗装】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相対湿度が85%以上のときは塗装を実施していないことが確認できる。(塗装前に湿度を測定している。) ・ 塗装するコンクリート面の含水率は高周波水分計で8%以下であることを確認している。 ・ 塗装前のコンクリート表面のレイタンス処理が適切に実施されていることが確認できる。 ・ しわ、ちぢみ、ふくれ、だれ等がないことが確認できる。 ・ 塗料の空缶管理が、写真等で確実に空であることが確認できる。 ・ 塗料の品質が出荷証明書、塗料証明書で確認できる。 			
II	品					
質						

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	(下水道) コンクリ ー ト構造物工 事(重力濃 縮槽・等)	評価値=()評価数/()対象評価項目数=() % 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満…………… b 評価値が60%以上～80%未満…………… c 評価値が60%未満…………… d				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート構造物補修工事(断面修復工事)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料は数量をはじめ、安全性が確認できる品質証明書が整理されている。 ・ 設計図書に示された数量が、使用前後(重袋・空袋)により写真で確認できる。 【断面修復工】 <ul style="list-style-type: none"> ・ はつり面が平坦に仕上げられ、清掃されていることが確認できる。 ・ 鉄筋を露出させ防錆処理を適切に行っていることが確認できる。 ・ 鉄筋を確実に設置していることが確認できる。 ・ 断面修復材の強度試験等(圧縮強度試験・フロー値・粘着力試験)を実施していることが確認できる。 ・ 断面修復工に先立ち、はつり面を刷毛で湿潤状態としていることが確認できる。 ・ 断面修復材を規定の配合で電動攪拌機で均一になるまで攪拌していることが確認できる。 ・ 1回あたりの施工厚は規定の厚さで施工していることが確認できる。 ・ 規定の鉄筋のかぶりを確保して、断面修復されていることが確認できる。 ・ 施工後は直射日光、風等が当たらないようにシートがけ養生を行っていることが確認できる。 【表面処理工】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表面処理工の塗装する面を洗浄し、乾燥状態としていることが確認できる。 ・ 施工時の天候、気温及び湿度等の条件が記録されており、適正な気象条件下で塗装していることが確認できる。 ・ 規定の回数で塗布されていることが確認できる。 ・ 塗装に有害な付着物がないことが確認できる。 ・ 雨水等の影響を受けない場所で保管していることが確認できる。 ・ しみ、ちぢみ、ふくれ、だれ等がないことが確認できる。 				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		品質	・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e			

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	コンクリート構造物工事（球形樹脂鉄筋使用高流動コンクリート）	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等）が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。（JIS A-5308以外の生コンを使用する場合） 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 コンクリート打込みに打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 目地に挟む目地材や止水坂等の設置が適切である。 コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。（高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する） コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。（平成26年8月19日付技第1019号） 重要構造物について、非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定・ひび割れ調査を行っている。（平成31年2月15日付技第1035号） 有害なクラックが無い。 目地に挟む目地材は、露出の表面で均一に出るよう施工されている。 				<p>・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p>
		<p>・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。</p>				
II	品					上記該当あれば・e
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>コンクリート構造物工事（球形樹脂鉄筋使用高流動コンクリート）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目地材、止水板等はやじれなく直線的に仕上がっている。 ・ 機器及び部品等で性能検査をするものは、製造者又は公的機関の証明書が整備されている。 ・ 高流動コンクリートの自己充てん性は、実際の構造物または部材を模擬した、これと同等の構造条件及び施工条件を有する実物大模型等により、照査している。 ・ 高流動コンクリートの流動性はスランプフロー試験、材料分離抵抗性は500mmフロー到達時間または漏斗流下時間、自己充てん性は充てん装置を用いた通過性試験等で管理している。 ・ 高流動コンクリートの打込み速度を、配合、部材形状、配筋状況等に応じて、試験結果や実績に基づいて適切に定めている。 ・ サンドイッチ鋼床版のコンクリートが十分に充てんされているかどうか、コンクリートの打込み及び締め固めに際し空気抜き孔等からのコンクリートのオーバーフロー等により確認できる。 ・ サンドイッチ鋼床版のコンクリートが十分に充てんされているかどうか、コンクリートの打込み及び締め固めに際し空気抜き孔等からのコンクリートのオーバーフロー等により確認できる。 ・ 鋼板に囲まれて閉鎖空間となる一つの隔室内には、コンクリートを連続して打込んでいることが確認できる。 <p>【鉄筋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・ スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・ 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・ 主鉄筋の引張試験を1規格10ロッドごとに実施している。 ・ 鉄筋の塗膜厚が、$220 \pm 40 \mu\text{m}$の範囲で管理していることが確認できる。 ・ 曲げ加工の際はキズ防止のため、緩衝材を当て加工していることが確認できる。 ・ 鉄筋の付着強度試験、ピンホール試験、耐衝撃性試験、曲げ加工状況をミルシート等で確認できる。 				

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	コンクリー ト構造物工 事（球キ樹 脂鉄筋使用 高流動コンク リー ト）	評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が 90% 以上…………… a 評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b 評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c 評価値が 60% 未満…………… d				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	橋梁補修工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【伸縮装置補修工事】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品の承認を受けていることが確認できる。 ・ 製品の品質が「試験成績表」等から確認できる。 ・ 既設伸縮装置を撤去するにあたり、他の部分に損傷を与え無いうように施工されている。 ・ 設置に先立ち、床板遊間量を適正に測定していることが確認できる。 ・ 施工にあたり、気温等が管理され、適正な条件で施工されている。 ・ 伸縮装置と舗装面の仕上がりが平坦に施工されている。 ・ 交通解放にあたり、強度発現の確認が行われている。 ・ 品質関係の試験結果のばらつきが少なく、良好であることが確認できる。 【落橋防止装置・工場製作】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材の員数照合がミルシート等（現物照合を含む）で確認されている。 ・ 塗装前の処理が適切に実施されていることが確認できる。 ・ 塗装の品質が出荷証明書、塗装証明書で確認できる。 ・ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 放射性透過試験により溶接個所の試験結果報告書が作成され、適正に実施したことが確認できる。 【落橋防止装置・設置工】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事着手前に、鉄筋探査器等で既設上下部構造の落橋防止装置取付部付近の配筋状況の確認☑がされている。 ・ アンカーの削孔にあたり、既設鉄筋やコンクリートに損傷を与えないよう注意して行っている。 ・ アンカーボルト孔の削孔長を全数確認し、資料が整理されている。 ・ 施工後にアンカーボルトの定着長を超音波探傷器を用いて全数測定し、資料が整理されている。 ・ アンカーボルトの材料搬入時に、長さ、径、材料について全数確認を行っている。 				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		II 品 質	・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・・e			

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	橋梁補修工 事	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ・ ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・ ブラケット接合面のケレンが入念に実施されていることが確認できる。 ・ 落橋防止ケーブルの設置は図面どおりに行われ、支間・遊間等の測定値は規格値を満足している。 ・ 塗装時の天候・気温及び湿度等の条件が記録・整理され、適切な条件のもとに塗装を行っている。 ・ 現場塗装で塗り残し、むら等が無い。 ・ 使用する材料の保管にあたり変形及び塗装面に損傷を与えないように適切に管理されている。 <p>【外ケーブル工法・工場製作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材の員数照合がミルシート等（現場照合含む）で確認されている。 ・ ボルト・ナット・定着金具の品質がミルシート等で確認できる。 <p>【外ケーブル工法・架設工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塗装する面が乾燥状態であることが確認できる。 ・ 施工時の天候、気温及び湿度等の条件が記録されおり、適性な気象条件下で塗装している。 ・ 塗料の空缶管理が、写真等で確実に確認できる。 ・ 締め付けボルト、桁との間及び隅の所で塗り残しがない。 ・ 設計図書に示された数量が、使用前後で資料により確認できる。 ・ 作業実施前に装置（機器）のキャリブレーションが実施されている。 ・ ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ・ ケーブルの緊張状況が記録され、適切に管理されている。 ・ 鋼材等の資材の保管にあたり変形及び製品に損傷を与えないように適切に管理されている。 <p>【橋面防水】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防水工において水分測定を行い、測定結果が書類で整備されている。 ・ 舗装端部の防水処理が、適正に施工されている。 				
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考查項目の考查項目別運表

(監督員)

考查項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形 及び出来 ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>橋梁補修工 事</p>	<p>・ 防水シートは、床版が十分に乾燥した後に適切に施工されている。</p> <p>・ 既存の舗装材の撤去が確実に行われ、背着材がむら無く塗布されている。</p> <p>・ 材料の規格・品質が試験成績表などで確認できる。</p> <p>評価値 = ()評価数 / ()対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90 % 以上…………… a</p> <p>評価値が 80 % 以上～90 % 未満…………… b</p> <p>評価値が 60 % 以上～80 % 未満…………… c</p> <p>評価値が 60 % 未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	橋梁補修工事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] ・ 使用材料が所定の品質を有することが、製造工場の試験成績書（検査証明書）で確認できる。 ・ 腐食状況を事前に調査し、調査結果を基に監督員と施工範囲を確認していることが書面で確認できる。 ・ 素地調整で鋼材面の水中生物、浮き錆、浮き塗膜等を除去し、規程のグレード（ISO St2以上）に仕上げていることが確認できる。 ・ 鋼材面に支障となる突起物がある場合は切断や研磨により除去している。 ・ 素地調整で生じた除去物は回収し、産業廃棄物として適正に処理していることが確認できる。 ・ ペーストテープが規程の重ね代（10％）を確保した上で巻き付けられていることが確認できる。 ・ 巻き付け後のペーストテープに水泡や気泡が残っていないことが確認できる。 ・ 防食テープが規程の重ね代（55％）を確保した上で巻き付けられていることが確認できる。 ・ 巻き付け後の防食テープに水泡や気泡が残っていないことが確認できる。 ・ 保護カバーは規定通りの幅をに重ね合わせて施工されていることが確認できる。 ・ 上端部が上部構造物に所定の深さで差し込まれ、間隙部に水中硬化型エポキシ樹脂を十分に充填していることが確認できる。 ・ 下端部は下端固定金具で固定し、水中硬化型エポキシ樹脂を十分に充填していることが確認できる。 評価値 = ()評価数 / ()対象評価項目数 = () % 評価値が 90 % 以上 a 評価値が 80 % 以上～90 % 未満 b 評価値が 60 % 以上～80 % 未満 c 評価値が 60 % 未満 d				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・・e
II	品					
質						

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	旧橋撤去工	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		<p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> 施工計画書に作業方法、手順、仮設方法等が記載され実施している。 施工計画書に周辺環境に配慮した騒音対策、振動対策が記載され実施されている。 施工計画書に安全対策が記載され実施している。 撤去数量（鋼材、コンクリート）が確実に処理されていることが書類・写真で確認できる。 処理量が最終処分地での記録と整合する。 埋設物撤去状況及び記録が適切である。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上…………… a</p> <p>評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b</p> <p>評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c</p> <p>評価値が 60% 未満…………… d</p>				
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	海岸工事 (緩傾斜護 岸工)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 <ul style="list-style-type: none"> 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレターによる締固、養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) 有害なクラックが無い。 施工基面が平坦に仕上げられている。 材料の規格・品質が試験成績表等で確認できる。 海岸部に保管する型枠のセパレート、組立の鉄筋等は、錆防止対策を行っている。 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		Ⅱ 品 質	・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e			

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	海岸工事 (潜堤・人工リーフ)	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレターによる締固、養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) 施工基面が平坦に仕上げられている。 材料の規格・品質が試験成績表等で確認できる。 捨石、被覆石などの材料の規格・品質が試験成績表等(現物照合を含む)で確認できる。 コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 鉄筋の加工が適切であることが確認できる。 潮位が事前に確認され整理されている。 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 <p>【潜堤(人工リーフ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリートブロックの転地、仮置に際し、強度確認を行っている。 				<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 品質関係の測定方法又は測定値が適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 <p>上記該当あれば・e</p>
II 品 質						

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	港湾工事 (岸壁工)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・ コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、パイプレターによる締固、養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) ・ 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されてれている。 ・ コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・ コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・ コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・ コンクリート打込み前に打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・ 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 ・ 目地に挟む目地材や止水坂等の設置が適切である。 ・ コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。(高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・ コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) ・ 重要構造物について、非破壊試験による配筋状態及びかぶり測定・ひび割れ調査を行っている。(平成31年2月15日付技第1035号) ・ 有害なクラックが無い。 ・ 目地に挟む目地材は、露出の表面で均一に出るよう施工されている。 				
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>港湾工事 (岸壁工)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目地材、止水板等はやじれなく直線的に仕上がっている。 ・ 機器及び部品等で性能検査をするものは、製造者又は公的機関の証明書が整備されている。 ・ 高流動コンクリートの自己充てん性は、実際の構造物または部材を模擬した、これと同等の構造条件及び施工条件を有する実物大模型等により、照査している。 ・ 高流動コンクリートの流動性はスランプフロー試験、材料分離抵抗性は500mmフロー到達時間または漏斗流下時間、自己充てん性は充てん装置を用いた通過性試験等で管理している。 ・ 高流動コンクリートの打込み速度を、配合、部材形状、配筋状況等に応じて、試験結果や実績に基づいて適切に定めている。 ・ 高流動コンクリートは、表面仕上げを行う時期まで、表面の乾燥を防止する対策を施していることが確認できる。 ・ 潮位が事前に確認され整理されている。 <p>【鉄筋関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・ スペースを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・ 鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・ 主鉄筋の引張試験を1規格10ロッドごとに実施している。 ・ 鉄筋圧接(溶接) 作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 鉄筋の重ね継手が、設計図書に示す長さを重ね合わせて、なまし鉄線で数箇所緊結していることが確認できる。 <p>【鋼管杭及び矢板、控工関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 杭及び矢板に損傷及び補修痕がなく施工されている。 ・ 杭及び矢板の打ち止め施工管理方法等が整備され、かつ記録が確認できる。 ・ 溶接及び切断の品質管理に関して仕様書に定められた事項が確認できる。 ・ 打ち込み機械が堅固な足場に固定され、施工されていることが確認できる。 ・ 溶接（ガス切断）作業にあたり、作業員の技量確認をおこなっている。 				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	海岸工事 (養浜工)	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 盛土材の品質、形状が設計図書に基づくことが、試験成績表で確認できる。 ・ 盛土材の粒径の混合割合が確認できる。 ・ 締め固めを適切な条件で施工している。(巻きだし厚が均一で均等な転圧) ・ 盛土材の表面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 ・ 工事期間中1日1回は潮位観測を行い、記録している。 ・ 養浜施工断面の実測を行い、数量の確認ができる。 ・ 搬入土砂の数量確認ができる。(樹立て等を実施。) ・ 養浜済みの箇所に浸食があった場合、監督員の出来高確認済みの部分を除いて再施工を実施している。 <p>評価値=()評価数/()対象評価項目数=()%</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～80%未満…………… c</p> <p>評価値が60%未満…………… d</p>				<p>・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p> <p>・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。</p> <p>上記該当あれば…e</p>

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	海岸工事 (浚渫工) (埋め立て 工)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【浚渫】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認できる。 ・ 工事期間中、1日1回は潮位が事前に確認され記録が整理されている。 ・ 浚渫工についてムラなく設計図書どおりに施工されていることが記録により確認できる。 ・ 測深資料から施工の適正さが確認できる。 ・ ポンプ浚渫の施工において、施工中絶えず潮位の変化に注意し計画深度を誤らないよう施工していることが確認できる。 ・ ポンプ浚渫の施工において、浚渫の作業位置を随時確認できるよう施工していることが確認できる。 ・ 浚渫土処理が設計図書どおりに施工されていることが確認できる。 ・ 浚渫の際、既存施設への影響が生じない様適切に施工している。 				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		【土工事】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 搬入土砂の数量確認ができる。(柵立て等を実施。) ・ 搬出土砂の数量確認ができる。(搬出先での数量又はダンプの台数等) ・ 締め固めを適切な条件で施工している。(巻きだし厚が均一で均等な転圧) ・ 盛土材の表面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 ・ 工事期間中1日1回は潮位観測を行い、記録しておかなければならない。 ・ 盛り土施工断面の実測を行い、数量の確認ができる。 ・ 盛り土済みの箇所に浸食があった場合、監督員の出来高確認済みの部分を除いて再施工を実施している。 ・ ダンプ運搬において、過積載かどうか確認できる。 【浚渫土改良】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料は、数量をはじめ、安全性が確認できる品質証明書が整理されている。 ・ 改良材料の品質管理を適切に行っていることが記録で確認できる。 				・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	漁礁工 (コンクリート及び鋼製部材)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【共通】 ・ 濁り防止等環境保全に十分注意して施工していることが確認されている。 ・ 潮位が事前に確認され整理されている。 【魚礁製作関係】 (コンクリート材) ・ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格(強度・w/c・最大骨材粒径・塩化物総量等)が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・ コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。(JIS A-5308以外の生コンを使用する場合) ・ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレータによる締固、養生方法等、適切に行っている。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) ・ 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・ コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 ・ コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 ・ コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・ 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 ・ コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 (高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・ コンクリート打込み前に、単位水量試験または水セメント比試験を実施している。(平成26年8月19日付技第1019号) ・ 有害なクラックが無い。 ・ コンクリートブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。 ・ コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適切であることが確認できる。				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	上記該当あれば・e			
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	漁礁工（コンクリート及び鋼製部材）	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 スペーサーを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 鉄筋の企画・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 魚礁ブロック等を現場で製作するものは、型枠搬入時に仮組等を実施し、寸法・歪み・傷等をチェックしている。 魚礁ブロックの製作で豆板、かけ、型枠の目違いが規定の範囲であることが確認できる。 <p>【魚礁製作関係】（鋼製材）</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋼材の員数照合がミルシート等（現物照合含む）で確認できる。 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 放射性透過試験により溶接箇所試験結果報告書が作成され、適正に実施されたことが確認できる。 ボルトの締付確認が実施され、適切に記録が保管されている。 ボルトの締付機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ボルトの品質がミルシート等で確認できる。 <p>【魚礁沈設工】</p> <ul style="list-style-type: none"> 沈設に先立ちGPS及びD-GPS等の測量機器を利用して位置を測定し、設計図書に定められた場所に沈設し、管理表を作成している。 沈設時の着底速度は、毎秒0.8m以下の速度で着底している。 沈設された魚礁は音響測深器等により高さ・長さ・幅を測定し、出来形図を作成している。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価値が 90 % 以上…………… a 評価値が 80 % 以上～90 % 未満…………… b 評価値が 60 % 以上～80 % 未満…………… c 評価値が 60 % 未満…………… d 				
II						
品						
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	砂防工（鋼製枠・スリット堰堤）	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p>				<p>・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p>
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地山との取り合わせが適切に行われている。 ・ 施工基面が平滑に仕上げられている。 ・ 材料の品質規程証明書が整備されている。 <p>【鋼製枠堰堤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼材の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・ 鋼材に損傷及び補修痕がないことが確認できる。 ・ 鋼材に損傷があった場合は、塗装補修を実施していることが確認できる。 ・ 鋼材の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 床面部、上層部の仮組を実施し、レベル調整を行ってから本締めを実施していることが確認できる。 ・ 構造物周辺の締め固め等の処理を適正に行っている。 ・ 堰堤の施工に、ずれ、歪み、はらみ、損傷がないことが確認できる。 ・ 堰堤工の詰め石の施工が適切で空隙が生じていない。 ・ 堰堤の中詰め石が仕様書等に定められた大ききで施工されている。 ・ 堰堤の中詰め石の単位体積重量が設計単位体積重量より大きいことが確認できる。 ・ 吸出し防止材が所定の幅で重ね合わせられていることが、写真記録等により確認できる。 ・ 吸出防止材の引張強度の試験値を確認できる。 ・ 土砂漏れ防止材（エキスバンドメタル）の品質証明がミルシート等で確認できる。 <p>【スリット堰堤】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品に損傷、キズが無いことが確認できる。 ・ 鋼製スリットの規格、品質が適正であり証明書が整備されている。 				
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>砂防工（鋼製枠・スリット堰堤）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鋼製スリットの保管、吊り込み等に十分注意を払い適切に施工されている。 ・ スリットが規定の水平高さに取り付けられており、ボルトで十分締め付けられている。 ・ コンクリート打設時の必要な供試体が採取され、強度・スランプ・空気量等が確認できる。 ・ 施工条件及び気象条件に適した運搬時間・打設投入高さ・締固め・養生方法など適切に行っている。 ・ 塗料材料の品質が適正であり、空缶管理が写真等で確認できる。 ・ 適正な気象条件で施工され、塗り残し等が無いことが確認できる。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上…………… a</p> <p>評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b</p> <p>評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c</p> <p>評価値が 60% 未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。 工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	ポケット式	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。
	落石防護網 工事	[評価対象項目] ・ 材料・製品の品質・規格等がミルシート等により確認できる。 ・ 金網の設置にあたり法面への固定方法が適切である。 ・ 金網・ネット等が施工計画書のとおり施工され、仕上げ面から適正な間隔を保ち固定されている。 ・ 金網が最上段の横ロープへ20cm以上折り返し、結束線と結合コイルで固定していることが確認できる。 ・ 金網の設置において、隣り合う金網は30cm(20cm以上)重ねて施工されていること確認できる。 ・ 支柱の建込において、ピンボルトの締め付け確認が実施され、適切に管理されている。 ・ ピンボルトの締め付け機、測定機器のキャリブレーションを実施している。 ・ アンカーが確実に固定されていることが確認できる。 ・ アンカーの体力確認として、架設現場において、耐力テストを行い、実際の体力を確認している。 ・ アンカー、支柱、ピンボルト、金網等の保管管理が適正である。				
II 品 質		評価値=()評価数/()対象評価項目数=()% 評価値が90%以上…………… a 評価値が80%以上～90%未満…………… b 評価値が60%以上～80%未満…………… c 評価値が60%未満…………… d				上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>雪崩防止柵 (フェンスタイプ)</p>	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料（ネット、アンカーロッド、注入材）・製品の品質・規格等がミルシート等により確認できる。 ・ グラウトのコンシステンシー試験を実施し、フロー値の範囲が基準値内であることが確認できる。 ・ グラウトの圧縮強度試験（$\sigma 28 \cong 24 \text{ N/mm}^2$）を実施し、強度管理を行っている。 ・ グラウト注入の状況が孔口上部まで確実に充填されていることがオーバーフローにより確認できる。 ・ グラウトの注入量が、セメントの充空袋数量等で確認できる。 ・ ワイヤロープを端部基部プレートにワイヤークリップで定着するにあたり、所定のトルクで締付られていることが確認できる。 ・ 削孔の方向、削孔長について確認できる記録が整理されている。 ・ ネット山側面に金網を上下にラップさせて敷設していることが確認できる。 ・ アンカーロッド挿入までの定着具、アンカーロッド等の保管管理が適正である。 ・ 施工完了後、設計を満足するものであるかどうかを確認するための確認試験を実施している。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上…………… a</p> <p>評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b</p> <p>評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c</p> <p>評価値が 60% 未満…………… d</p>				<p>・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。</p> <p>・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。</p> <p>上記該当あれば…e</p>

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	スノー シェッド工 事（二次製 品）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。
		<p>[評価対象項目]</p> <p>【制作関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品の性能が試験成績表で確認できる。 プレストレス時のコンクリート圧縮強度が確認できる。 製品に工事名又は記号、コンクリート打込み年月日、通し番号が表示されている。 製品の受け取りを現場代理人などの責任ある者が、製品を確認して受け取り、損傷等の無いもので施工している。 <p>【架設関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品の保管、吊り込み、据え付け等に十分注意を払っていることが確認できる。 横梁の緊張及びグラウト材料の配合及び強度の管理が適切に管理されている。 柱脚部に防水シール材又は軟質ゴムを充填している。 主梁間及びブロック間の目地は、防水シート、弾性シーリング材質等の防水処理を行っている。 防水工は、上部が十分に乾燥したことを確認した後に適切に行っている。 <p>【コンクリート構造物】</p> <ul style="list-style-type: none"> コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ、空気量等が確認できる。（JISA-5308以外の生コンを使用する場合） 施工条件及び気象条件に適した運搬時間、打込み時の投入高さ、バイブレーターによる締固、養生方法等、適切に行っている。（寒中及び暑中コンクリート等を含む） 型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 コンクリートの打ち直しや補修の痕跡がない。 コンクリート打込み時に雨水やわき水が適切に処理されている。 コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 				
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形及び出来ばえ</p> <p>II 品 質</p>	<p>スノー シェッド工 事（二次製 品）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打込み前に打継目処理を適切に行っていることが確認できる。 ・ 型枠の目違いがなく、型枠の破片等がコンクリート表面になく、丁寧な仕上がりが確認できる。 ・ 高炉セメント使用の場合は、初期強度の管理に細心の配慮がうかがえる。 ・ 目地に挟む目地材や止水板等の設置が適切である。 ・ コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。 (高炉B種・C種のセメントを使用したコンクリートの場合は評価対象から除外する) ・ コンクリートの水セメント比試験を実施し、許容範囲に入っていることが確認できる。 ・ ひび割れの発生調査を実施し、調査票を作成して提出する。 ・ テストハンマーによる強度推定調査を実施し、調査票を作成している。 ・ 有害なクラックが無い。 <p>【鉄筋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コンクリート打込みまでの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 ・ 鉄筋の組立・加工が適切であることが確認できる。 ・ スペースを適切に配置し、鉄筋のかぶりを確保している。 ・ 鉄筋圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 ・ 鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・ 主鉄筋の引張試験を1規格10ロッドごとに実施している。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が90%以上…………… a</p> <p>評価値が80%以上～90%未満…………… b</p> <p>評価値が60%以上～80%未満…………… c</p> <p>評価値が60%未満…………… d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	地盤改良工事 (スラリー攪拌工)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【スラリー攪拌工】				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 規定の有効径が確保され、一軸圧縮強度試験により強度管理されている。 ・ 六価クロム溶脱にたいする確認が実施され、本工事が実施されている。 ・ 記録から仕様書に定められている事項が確認できる。 ・ 盛上がり土に状況確認及び管理を適切に行っていることが記録で確認できる。 ・ 打ち込み機の施工に先立ち自動記録装置の性能確認試験がなされている。 ・ 打ち込み記録がチャート等により適正に施工管理されている。 ・ 所定の深度まで混合攪拌したことが、確認できる。 評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が 90% 以上…………… a 評価値が 80% 以上～90% 未満…………… b 評価値が 60% 以上～80% 未満…………… c 評価値が 60% 未満…………… d				
II	品					
質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ II 品 質	土工事（改 良盛土）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		[評価対象項目] 【混合処理工法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 盛土材の品質、形状が設計図書に基づくことが、試験成績表で確認できる。 ・ 土砂と砂の配合比率が1：1であることが確認できる。 ・ 締め固めを適切な条件で施工している。（巻きだし厚が均一で均等な転圧） ・ 盛土材の表面が平坦に仕上げられていることが確認できる。 ・ 軟弱地盤での盛り土施工では、沈下量の測定が適正に実施されている。 ・ 搬入土砂の数量確認ができる。（柵立て等を実施。） ・ 搬出土砂の数量確認ができる。（搬出先での数量又はダンプの台数等） ・ 盛り土の締め管理（密度等）が適切に実施されていることが確認できる。 ・ 運搬中に水分が浮かんでこないような土の状態であるか、運搬前に確認してから搬出している。 ・ 雨天は搬出ししない。搬出するときは、シート等で覆い含水比が高くなるように工夫して運搬している事が確認できる。 ・ コーン指数が指定の数値以上であることを確認している。 【ESR工法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用材料は、数量をはじめ、安全性が確認できる品質証明書が整理されている。 ・ 添加材使用量は、自動計量装置等を使用し、規定分の添加材を添加したことが確認できる。（使用量の確認） ・ 工事着手前に配合試験、一軸圧縮試験等を実施し、それに基づいた施工がなされている。 ・ 締め固めを適切な条件で施工している。（巻きだし厚が均一で均等な転圧を行っている） ・ 盛土材の表面が平坦に仕上げられている。（各層ごと） ・ 軟弱地盤での盛り土施工では、沈下量の測定が適正に実施されている。 ・ 搬入土砂の数量が確認できる。（柵立て等を実施） ・ 搬出土砂の数量が確認できる。（搬出先での数量又はダンプの台数） 				・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ Ⅱ 品 質	ダム工事 (重力式コン クリートダム)	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		[評価対象項目] 【共通】 ・鉄筋の保管管理、組立・加工が適切でことが確認できる。 ・鉄筋の規格・引張強度・曲げ強度の試験値をミルシート等で確認できる。 ・工事で発生する濁水の処理（スラッジ、放流水）が適切に管理されている。 【基礎掘削】 ・必要な岩盤線まで確実に掘削されている。 ・ゆるみや浮き石等を除去し、仕上げ掘削が適切である。 ・断層等弱層の処理が適切に行われている。（無い場合は省略、グラウチング等特殊基礎処理は基礎処理で評価） 【ダムコンクリート】 ・コンクリート用骨材の品質・規格が仕様書に合致し適切である。 ・設計図書に基づくコンクリートの配合試験または試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格（強度・w/c・最大骨材粒径・塩基総量等）が確認できる。 ・コンクリート打込み時の必要な供試体を採取し、強度、スランプ・空気量等が確認できる。 ・施工条件及び気象条件に適した打込み時間、打込み時の投入高さ、バンプレターによる締固め管理、雨水やわき水の処理を行っている。 ・型枠、支保工の組立が適正で、コンクリート打込み後、取り外し時期がコンクリート強度等で適正に管理されている。 ・コンクリートの現場養生用の供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・施工の打ち継ぎ目処理（越冬ブロックの処理を含む）が適切である。 ・目地材、止水板等はよじれなく直線的に仕上がっている。 ・機器及び部品等で性能検査をするものは、製造者又は公的機関の証明書が整備されている。 ・コンクリート及びセメントコンクリート製品の使用にあたりアルカリ骨材反応抑制対策の適合を確認している。				・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e

[記入方法] 該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	ダム工事 (重力式コンクリートダム)	評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が 90 % 以上..... a 評価値が 80 % 以上～90 % 未満..... b 評価値が 60 % 以上～80 % 未満..... c 評価値が 60 % 未満..... d				
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	トンネル工 (ナトム工法)	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕様書等で定められている、品質管理が実施されている。 ・ 材料の品質規定証明書が整備されている。 ・ 日々計測管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。 ・ 金網の継ぎ目を一目以上重ねあわせていることが確認できる。 ・ 施工に先立ち配合試験を行い、コンクリートの品質向上に取り組んでいる。 ・ 吹き付けコンクリートは、浮き石等を除いた後に地山と密着するよう施工されている。 ・ 吹き付けコンクリートの打ち継ぎ部の施工で清掃及び湿润状態が確認できる。 ・ 吹き付けコンクリートの跳ね返りの少ないのが確認できる。 ・ ロックボルト挿入前にくり粉除去の清掃がなされている。 ・ 覆工コンクリートは、打込み時型枠に変圧を与えていないことが確認できる。 ・ コンクリートの打ち継ぎ目処理が、仕様書等の規定に従い実施されている。 ・ コンクリートの供試体が、当該現場のものであることが確認できる。 ・ 型枠等の取り外しに関して適切に管理されている。 ・ コンクリート等にクラックがない。 <p>評価値 = ()評価数 / ()対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90 % 以上 a</p> <p>評価値が 80 % 以上 ~ 90 % 未満 b</p> <p>評価値が 60 % 以上 ~ 80 % 未満 c</p> <p>評価値が 60 % 未満 d</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 <p>上記該当あれば・ e</p>
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ Ⅱ 品 質	グラウチン グエ	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				・品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
	[評価対象項目] ・ 圧力水により孔内のスライムを除去し、洗浄がなされている。 ・ せん孔の位置、せん孔長、方向について確認ができる記録が管理されている。 ・ グラウト注入のセメントミルクの品質、強度及び充填確認が資料等により確認できる。 ・ 製造されたセメントミルクの比重を管理していることが確認できる。 ・ 注入中に注入圧、注入量、注入速度について、管理していることが確認できる。 ・ 注入中のステージが完了するまで、連続して注入していることが確認できる。 ・ グラウチングの効果を確認するため、チェック孔をせん孔し、コア採取、透水試験を実施している。 ・ 隣接の注入孔との位置関係が写真等で確認できる。(間隔、単位あたり個数等) ・ 計量装置は定期的に検査し、その検査結果を監督員に提出していることが確認できる。				・品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	
		評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %				上記該当あれば・e
		評価値が 9 0 % 以上…………… a				
		評価値が 8 0 % 以上～ 9 0 % 未満…………… b				
		評価値が 6 0 % 以上～ 8 0 % 未満…………… c				
		評価値が 6 0 % 未満…………… d				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	グラウチン グエ	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] ・ 使用材料の品質規格証明書が整備され、特記仕様書の規定する規格・品質を満足している。 ・ 特記仕様書に基づく発砲ウレタンの配合試験または試験練りが行われており、適切な材料の規格（強度・密度等）が確認できる。 ・ 性能試験をするもので公的機関の証明書が整備されている。 ・ 発砲ウレタンの供試体が当該現場のものであることが確認できる。 ・ 発砲ウレタンの充填が充分で空隙が生じていない。 ・ 発砲ウレタンの施工時に供試体を採取し、強度・密度・等が確認できる。 ・ 使用材料の空缶管理で、充缶及び空缶であることが確実に写真等で確認でき、出荷証明書が整理されている。 ・ 特記仕様書で定められた制限内の気温・湿度の条件で作業を行っていることが確認できる。 ・ 湧水・地表水の処理が適切に行われ地山表面の不純物の除去が確実に実施されている。 ・ 注入量は流量計を使用し、規定分の注入剤を注入したことが確認できる。 ・ 注入状況を証明する記録用紙には、監督員の検印されたもので整理されている。 評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () % 評価値が 90% 以上 a 評価値が 80% 以上～90% 未満 b 評価値が 60% 以上～80% 未満 c 評価値が 60% 未満 d				・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 上記該当あれば・e
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	機械設備工 事	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。				<ul style="list-style-type: none"> 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。
		<p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> 品質や性能確保のための製作着手前の技術検討が充分実施され、内容が確認できる。 材料の品質照合がミルシート等（現物照合を含む）で確認でき、満足している。 部品の品質、性能が証明書等で確認でき、満足している。 機器の品質、機能、性能が成績書等で確認でき、満足している。 溶接管理が設計書のとおり実施され、内容が確認でき、欠陥がなく満足している。 塗装管理が設計書のとおり実施され、内容が確認でき、欠陥がなく満足している。 製品の機能、性能管理が設計図書のとおり実施され、内容が確認でき、欠陥がなく満足している。 操作制御関係が、所定の機能を有しているとともに、必要な安全装置、保護装置の機能が確認でき、満足している。 				
II 品 質		<p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90% 以上 a</p> <p>評価値が 80% 以上 ~ 90% 未満 b</p> <p>評価値が 60% 以上 ~ 80% 未満 c</p> <p>評価値が 60% 未満 d</p>				上記該当あれば・e

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形及び出来ばえ	維持修繕工事（側溝修繕）（ネプラス工法）	☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。 [評価対象項目] 【ネプラス工法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ネプラス工法用製品の品質規格証明書が整理され、特記仕様書の規定する規格・品質を満足している。 ・ 側溝上部の損傷部を切断及び撤去するに際し、既設部に損傷を与えていないことが確認できる。 ・ 既設側溝に接続ボルト穴の穿孔作業において、側溝にひび割れ等がない事が確認できる。 ・ 接続ボルト穴に2液混合エポキシ樹脂接着剤を注入した後、ボルトをセットしていることが確認できる。 ・ 側溝上部補強金具がグラつかず、固定されていることが確認できる。 ・ ネプラス用グラウト材の品質がミルシート等で確認できる。 ・ 間詰コンクリート（ネプラス用グラウト材）が隙間なく充填されていることが確認できる。 ・ ネプラス用グラウトの強度試験を実施し、強度を確認している。 ・ ネプラス用グラウト材の空袋管理で、充袋及び空袋であることが確実に写真等で確認でき、出荷証明書が整理されている。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		【アスファルト舗装】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 ・ 舗設後、直ちに供用する必要がある現場で、交通解放時の温度管理を適切に行っている。 ・ 気象条件に適した混合物の運搬方法、舗設作業（締固め等）の配慮が行われている。 ・ 乳剤が均一に散布され、第三者への飛散防止対策、及び構造物への付着などに細心の注意が払われている。 ・ アスファルト舗装工の密度試験を実施しおり、規格値が基準密度以上である。 ・ 表面排水が良好である。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 <p>上記該当あれば・・e</p>
II 品 質						

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の審査項目の審査項目別運表

(監督員)

審査項目	工 種	a	b	c	d	e
<p>3.出来形 及び出来 ばえ</p> <p>II</p> <p>品</p> <p>質</p>	<p>電線共同溝 工事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な長さを切管して使用する場合は、切管した端面は、内外面とも面取りやすり等を用いて糸面取りを行い、平滑に仕上げている。 ・ 管路部に多孔管を用いる場合は、隣接する各ブロックに目違いが生じないよう、かつ上下左右の接合が平滑になるように施工している。 ・ プレキャストボックス（特殊部）の施工にあたっては、基礎について支持力が均等になるように、かつ不陸を生じないように施工している。 ・ プレキャストボックス（特殊部）の施工にあたっては、隣接する各ブロックに目違いによる段差、蛇行が生じないように施工している。 ・ プレキャストボックス（特殊部）の蓋の設置について、ボックス本体及び歩道面と段差が生じないように施工している。 ・ 舗装の出来あがり左右する路盤工が平坦に出来上がっていることが確認できる。 ・ 路盤工が設計図書に基づき、所定の厚さ管理が行われ、かつ品質管理が行われている。 ・ 路盤工が構造物周辺の絞め固め等で振動ローラー等による入念な施工が実施されている。 ・ 混合物の温度管理が、プラント出荷時・現場到着時・舗設時等で整理・記録されている。 ・ 乳剤が均一に散布され、第3者への飛散防止対策、及び構造物への付着などに細心の注意が払われている。 ・ 舗装工の路肩処理、縁端処理の施工において、細やかな配慮がなされ、丁寧に施工されている。 ・ 仮復旧の路面は、ひび割れ、段差等通行の妨げとなるような施工不良が発生せぬよう平滑に仕上げられている。 <p>評価値 = () 評価数 / () 対象評価項目数 = () %</p> <p>評価値が 90 % 以上..... a</p> <p>評価値が 80 % 以上～90 % 未満..... b</p> <p>評価値が 60 % 以上～80 % 未満..... c</p> <p>評価値が 60 % 未満..... d</p>				

[記入方法]該当する項目の・に○マークを記入する。

工事成績採点の考査項目の考査項目別運表

(監督員)

考査項目	工 種	a	b	c	d	e
3.出来形 及び出来 ばえ	ゴムチップ 舗装工事	<p>☆ 品質が、試験項目、試験基準及び規格値を満足する。</p> <p>[評価対象項目]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の規格、品質が適正であり、証明書等が整備されている。 ・ 舗装・路盤工の締め固めを適切な条件で施工している。 ・ 舗装工の出来上がりを左右する路盤工が平坦に出来上がっていることが確認できる。 ・ 設計図書に基づく混合物は、配合報告者により適切な配合規格が確認できる。 ・ ゴムチップ・ウレタンバインダーの空袋管理が写真等で確実に確認できる。 ・ 材料のゴムチップの保管が水に濡れないように管理されている。 ・ 材料（ゴムチップとウレタンバインダー）の混合が3分以上入念に行われ、良くなじんでいることが確認できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の試験結果が規格値、試験基準を超えるものがある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ プライマが均一に散布され、第三者への飛散防止対策、及び構造物への付着などに細心の注意が払われている。 ・ ゴミ、ドロ等の汚れは、清掃・水洗いをし、乾燥させ、ローラー刷毛で均一にプライマを塗布していることが確認できる。 ・ ゴムチップ舗装は降雨の場合、施工していない。 ・ ゴムチップ舗装の敷き均しは、人力でレーキを使用し、厚みを確認しながら平坦に仕上げている。 ・ ゴムチップ舗装の敷き均し完了後、直ちに熱ローラで転圧し、その後アイロン又はコテにより仕上げている。 ・ ゴムチップ舗装が完了したら、24時間以上の養生を行っており、養生の間は上に乗らないようにしている。 ・ ゴムチップ舗装が完了した後は、硬化を待つ間もゴムチップ舗装が雨に濡れないようにブルーシート等で養生している。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。 <p>上記該当あれば・e</p>
II	品					
質						

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表

[記入方法] 創意工夫キーワードの該当する項目・に○マーク、□にレマークを記入する。		(監督員)						
考査項目	細 別	1. 創意工夫キーワード一覧表 (創意工夫が多く見られるリスト)	施工性	品質	安全性	作業環境	その他 (項目記載)	
5.創意工夫 【軽微なもの】	I.創意工夫 キーワード 評価	【施工】 ・1. 施工に伴う器具、工具、装置類の工夫又は、設備据付後の試運転調整の工夫 ・2. コンクリート二次製品の利用等代替材の運用と工夫 ・3. 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工関係の工夫 ・4. 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法等の工夫 ・5. 設備工事における加工、組み立て等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫 ・6. 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫 ・7. 照明などの視界の確保に関する工夫 ・8. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫 ・9. 運搬車輛・施工機械等に関する工夫 ・10. 支保工、型枠工、足場工、仮棧橋、覆工板、山留め等の仮設工関係に関する工夫 ・11. 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫 ・12. 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫 ・13. 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫 ・14. 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫 ・15. ICT (情報通信技術) を活用した情報化施工を取り入れた工事 (*本項目は2点の加点とする。) 【新技術活用】 ・1. NETISやMade in 新潟新技術普及制度等、国や地方自治体の新技術制度に登録された新技術を受注者からの提案により活用した。 (*本項目は、1つの新技術の活用につき2点の加点とし、最大4点の加点評価とする。) 【品質】 ・1. 土工、設備、電気の品質向上に関する工夫 ・2. コンクリートの打設関係の工夫 (材料、打設、養生、出来形、品質等) ・3. 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫 ・4. 配筋、溶接作業等に関する工夫 【安全衛生】 ・1. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫 (落下物、墜落、転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等) <input checked="" type="checkbox"/> ・2. 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール、安全帯使用等に関する工夫 ・3. 現場事務所、労務者宿舍等の居住空間及び設備等の工夫 ・4. 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止策や作業中の換気等に関する工夫 ・5. 供用中の道路等の事故防止、一般車両突入時の被害軽減対策、及び一般交通の安全確保に関する工夫 ・6. 作業環境が厳しい現場での環境改善等に関する工夫 ・7. ゴミの減量化、アイドリングストップの励行等の地球環境への工夫 【その他】 ・1 () ・2 週休2日取得モデル工事」を実施し、技術者が週休2日 (4週8休相当) を達成。 (※本項目は3点の加点とする。)	<input type="checkbox"/> ()					
		記述評価 (○マークを付したキーワード項目について評価内容を記述)	評価: 点	【創意工夫の詳細】	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(採点指標)

- ※1. 特に評価すべき創意工夫事例を加点評価する。評価に当たって、その効果を確認する。
- ※2. 評価は、各項目において1つ○点が付されれば1、2、3、4点で評価し、最大7点の加点評価とする。完全週休2日取得で追加得点があった場合でも最大は7点とする。
- ※3. 該当するキーワード数と重みを勘案して評価する。1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えてもよい。
- ※4. 上記の考査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体的内容を記載して加点する。なお、総括監督員が評価する「工事特性」との二重評価は行わない。

品質一覧表

(監督員)

	ページ	項目	細項目		ページ	項目	細項目		ページ	項目	細項目
品質工種(1)	別紙-3 ③	コンクリート構造物工事	【共通】【無筋】【鉄筋】に分類、二次製品構造物を別項目	品質工種(2)	別紙-3 ⑪	法面工事	【共通】【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】【コンクリート又はモルタル吹付工関係】【現場打砕工関係】【アンカー工】に分類	品質工種(3)	別紙-3 ⑲	維持修繕工事	【(防雪)柵修繕工事】【舗装道維持修繕工事】【道路維持修繕工事】【河床整形工事】に分類
	別紙-3 ④	コンクリート二次製品構造物工事	【共通】【擁壁類(補強擁壁は除く)】【用排水施設】【管水路工事】に分類		別紙-3 ⑫	基礎工事	【共通】【深礎工】【既製杭関係(コンクリート・鋼管・鋼管井筒等)】【場所打ち杭関係】【ケーソン】に分類、サンドマットは土工【盛土・築堤】に、【地盤改良】は別項目		別紙-3 ⑳	港湾築造工事	【共通】【浚渫・床掘関係】【地盤改良関係】【マット・捨て石及び均し関係】【本体:杭及び矢板、控工関係】【本体:ケーソン関係、ブロック関係】【防波堤工事】【上部工】【中詰、被覆工などの基礎工】に分類
	別紙-3 ⑤	土工	【共通】【切土、掘削等】【盛土・築堤等】【補強盛土】に分類		別紙-3 ⑬	地盤改良工事	【共通】【薬液注入工】【高圧噴射攪拌工】に分類		別紙-3 ㉑	道路工事	【共通】【路床・路盤工・路床安定処理】
	別紙-3 ⑥	護岸・根固・水制工事	【共通】【護岸】【かごマット】【根固・水制】に分類		別紙-3 ⑭	コンクリート橋工事(PC及びRCを対象)	【共通】【製作関係】【架設関係】に分類		別紙-3 ㉒	歩道工事	【共通】【路盤・舗装工】【付属構造物関係】
	別紙-3 ⑦	鋼橋工事	【工場製作関係】【架設関係】に分類		別紙-3 ⑮	塗装工事	-		別紙-3 ㉓	消雪工事	【削井工・取水施設工】【散水工(復旧舗装工も含む)】
	別紙-3 ⑧	砂防構造物及び地すべり防止工事	【共通】【砂防構造物工事に適用】【根留め工】【集水井戸工】【抑止杭工】【承水路工・排水路工】【水抜きボーリング工】【落石・雪崩防止工】に分類		別紙-3 ⑯	トンネル工事	【共通】【掘削】【支保工】【覆工】に分類		別紙-3 ㉔	下水道工事	【共通】【開削】【推進】
	別紙-3 ⑨	舗装工事	【路床・路盤工関係】【アスファルト舗装関係】【コンクリート舗装関係】【橋面舗装】に分類		別紙-3 ⑰	公園・植栽工事	【共通】【舗装・表層工】【植栽工】【付帯設備工】に分類		別紙-3 ㉕	砂防工事(本体:ダブルウォール 前堤・側壁:コンクリート構造物)	【共通】【砂防構造物工事に適用】【:ダブルウォール工】
別紙-3 ⑩	海岸工事	【共通】【護岸工・消波工・離岸堤】【突堤工】【上部工】【中詰、被覆工など基礎工】と仕分け	別紙-3 ⑱	防護柵(網)・標識・区画線等設置工事	【防護柵】【視線誘導標・道路標識】【区画線】【照明灯】に分類	別紙-3 ㉖	その他工事				

【監督員評価項目について】

(品質の評定に際し)

評価は、主たる工種で評定します。主たる工種は、概ね60%以上とします。

従って、主たる工種の割合が、概ね40%以上60%未満の場合は、2工種で、概ね40%未満の場合は3工種で評定することができます。

工種は、最大3工種で、2工種の算定は、次のようになります。

(例)2工種の場合、(1工種目のA/B+2工種目のC/D)=(A+C)/(B+D)とし、その結果を評価値とします。

(出来ばえ)

各工種の出来ばえ評定項目が似かよっているため、多工種の場合でも、主たる工種で評定します。

品質(その2)一覧表

ページ	項目	細項目	ページ	項目	細項目	ページ	項目	細項目
別紙-3-26-1 (出来ばえ有)	下水道工事[管渠補修工事]	【SPR工法】【3Sセグメント工法】【ダンピー工法】	別紙-3-26-12	鋼管防蝕工事[ペトロラウムライニング工法・TP工法]		別紙-3-26-23 (出来ばえ有)	スノージェット工事(二次製品)	
別紙-3-26-2 (出来ばえ有)	下水道工事[反応タンク覆蓋設置工事]		別紙-3-26-13	旧橋撤去工		別紙-3-26-24	地盤改良工[スラリー攪拌工]	
別紙-3-26-3 (出来ばえ有)	下水道工事[可とうジョイント設置工事]		別紙-3-26-14 (出来ばえ有)	海岸工事[緩傾斜護岸工]	【共通】【階段式護岸(緩傾斜ブロック)】【中詰石・被覆石】	別紙-3-26-25	土工事[改良盛土]	【混合処理工法】【ESR工法】
別紙-3-26-4 (出来ばえ有)	下水道工事[マンホール更生工事](MLR工法)		別紙-3-26-15 (出来ばえ有)	港湾工事[潜堤・人口リーフ]	【共通】【潜堤・人工リーフ】【帆布、捨石及び均し】	別紙-3-26-26 (出来ばえ有)	ダム工事[重力式コンクリートダム]	【共通】【基礎掘削】【ダムコンクリート】【基礎処理】【取水・放流設備】
別紙-3-26-5 (出来ばえ有)	下水道工事[マンホール・管口の耐震化工事]	【共通】【管口耐震化(マグマロック工法)】 【マンホール浮上抑制(セフティハイフ工法)】 【マンホール浮上抑制(ハットリング工法)】	別紙-3-26-16 (出来ばえ有)	港湾工事[岸壁工]	【共通】【鉄筋関係】【鋼管杭及び矢板、控工】	別紙-3-26-27 (出来ばえ有)	トンネル工[ナトム工法]	
別紙-3-26-6 (出来ばえ有)	水管橋工事[伸縮可とう管工事]	【工場制作関係】【架設関係】	別紙-3-26-17 (出来ばえ有)	護岸工事[養浜工]		別紙-3-26-28 (出来ばえ有)	グラウチング工	
別紙-3-26-7 (出来ばえ有)	コンクリート構造物工事[下水道]	【コンクリート構造物】【鉄筋】【コンクリート防食塗装】	別紙-3-26-18 (出来ばえ有)	港湾・海岸工事[浚渫工][埋め立て工]	【浚渫】【土工事】【浚渫土改良】	別紙-3-26-29 (出来ばえ有)	発砲ウレタン工事	
別紙-3-26-8 (出来ばえ有)	コンクリート構造物補修工事[断面修復工事]	【共通】【断面修復】【表面処理工】	別紙-3-26-19 (出来ばえ有)	漁礁工[コンクリート及び鋼製部材]	【共通】【漁礁製作(コンクリート材)】 【漁礁製作(鋼製材)】【漁礁沈設】	別紙-3-26-30 (出来ばえ有)	機械設備工事	
別紙-3-26-9 (出来ばえ有)	コンクリート構造物補修工事[炭素繊維補強工事]		別紙-3-26-20 (出来ばえ有)	砂防工[鋼製枠・スリット堰堤]	【共通】【鋼製枠堰堤】【スリット堰堤】	別紙-3-26-31 (出来ばえ有)	維持修繕工事[側溝修繕](ネプラス工法)	【ネプラス工法】【アスファルト舗装】
別紙-3-26-10 (出来ばえ有)	コンクリート構造物工事[エポキシ樹脂鉄筋使用高流動コンクリート]	【共通】【鉄筋】	別紙-3-26-21 (出来ばえ有)	ポケット式落石防護網工事		別紙-3-26-32 (出来ばえ有)	電線共同溝工事	
別紙-3-26-11 (出来ばえ有)(橋面防水は出来ばえ無し)	橋梁補修工事	【伸縮装置補修工事】【落橋防止装置・工場製作】 【落橋防止装置・設置工】【外ケーブル工法・工場製作】 【外ケーブル工法・工場製作】 【外ケーブル工法・架設工】 【橋面防水】に分類【断面修復】別項目	別紙-3-26-22 (出来ばえ有)	雪崩防止柵工事[フェンスタイク]		別紙-3-26-33 (出来ばえ有)	ゴムチップ舗装工事	

(例)2工種の場合、(1工種目のA/B+2工種目のC/D)=(A+C)/(B+D)とし、その結果を評価値とします。